

令和 2 年 11 月 16 日

【仙台医療センター跡地における県有施設再編】 メリット・デメリットの整理及び 施設整備に向けた県の方針(案)について



1. はじめに（検討の経緯）

現状と課題

- 1 全国と同様、本県でも**人口減少、少子高齢化が進行**
- 2 公共施設等の老朽化が進み、今後、**多くの施設が改修・更新の時期を迎える**

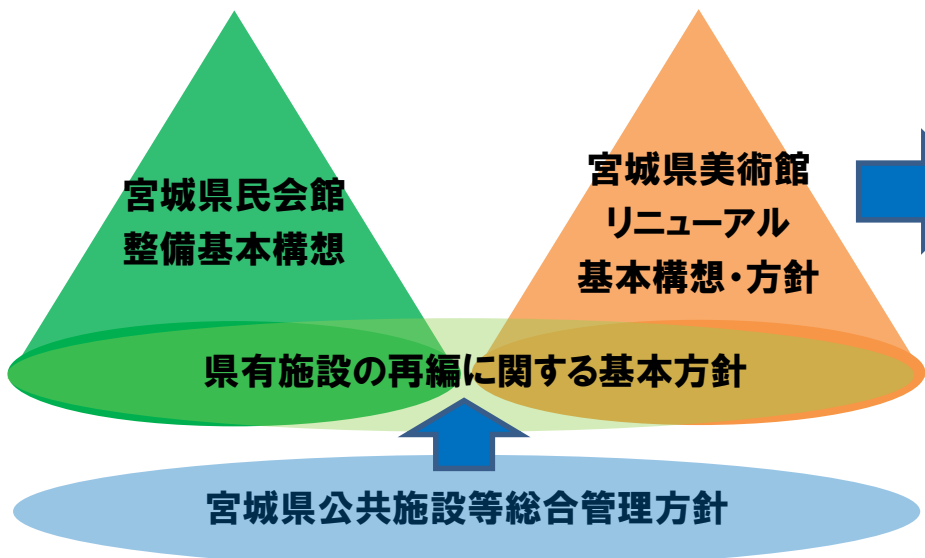
「宮城県公共施設等総合管理方針」(平成28年7月)

- 1 安全・安心の確保
- 2 施設維持管理費用の縮減・平準化
- 3 施設総量の適正化

「県有施設等の再編に関する基本方針」(令和2年3月)

- 1 県有施設の規模の適正化と施設機能の強化の実現
- 2 公有地の有効活用と県有施設の最適な立地の選定

各計画の関係性イメージ



仙台医療センター跡地における再編方針

- ▽ **宮城県美術館**については、仙台医療センター跡地において、**宮城県民会館及びみやぎNPOプラザ**と集約・複合化する方向で更に検討を進める。
(県有施設の再編に関する基本方針 より)

- ▽ 「文化的な視点」や「行政経営的な視点」から分析・検討


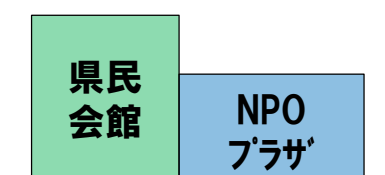

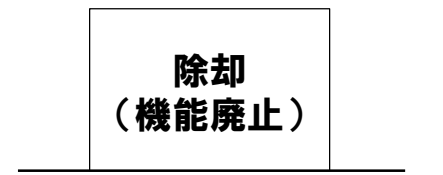
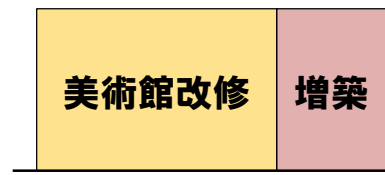

分析の視点

- ① 美術館の主な機能
- ② ライフサイクルコスト
- ③ 美術館の建物及び立地
- ④ 文化芸術の振興
- ⑤ 地理的条件

2. 比較検討する施設整備の方向性

方向性の
パターン

A案：美術館・県民会館・NPOプラザを**移転集約**
 B案：美術館は**現地改修（増築）** + 県民会館・NPOプラザは移転集約
 + 「文化的視点」と「行政経営的視点」の両立の観点から、新たな方向性（C案）を**追加**
 C案：美術館は**現地改修（増築なし）** + 県民会館・NPOプラザは移転集約

	A案:集約・複合化	B案:美術館 増築	C案:美術館 増築なし
仙台医療センター跡地（宮城野原）			
美術館現在地（川内）			
考え方など	<ul style="list-style-type: none"> ▽ 移転先でも美術館リニューアル基本方針の機能を実現 ▽ 県民会館とNPOプラザは、各案で主な機能の差は生じない。 ▽ 集約施設(新設)は、諸室を共有化することにより、運営の効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ▽ 美術館リニューアル基本方針に基づき整備 	<ul style="list-style-type: none"> ▽ 増築はせずに、美術館リニューアル基本方針を尊重の上、整備内容を見直し ▽ 同左

追加
+



3. 美術館の主な機能

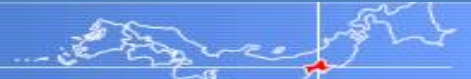
メリット・デメリット分析の視点 現美術館の課題への対応状況の比較

美術館の主な課題 **▽ 宮城県美術館リニューアル基本方針より** ①老朽化への対応 ②展示環境の整備及び収蔵庫の拡充
 ③教育普及機能や交流機能の充実 ④バリアフリーやユニバーサルデザインへの対応

	A案（集約・複合化）	B案（美術館増築）	C案（美術館増築なし）
面積試算	約14,500㎡（既存▲約600㎡） （うち全体共用 約2,800㎡分）	約18,200㎡（既存+約3,100㎡）	約15,100㎡（現状維持）
①老朽化対策	・新築	・経年劣化箇所等必要な更新・修繕を実施	・同左
②展示・収蔵機能	・展示・収蔵面積増床（+約1,200㎡） ・大幅なフレキシビリティ向上，最新設備導入可能	・展示・収蔵面積増床（+約1,200㎡） ・フレキシビリティ向上	・現県民ギャラリーを展示室・収蔵庫に転用（約650㎡分）
③教育普及・交流機能	・情報交流ラウンジ	・情報交流ラウンジ	・情報交流ラウンジ
	・キッズスタジオ	・キッズスタジオ	・キッズスタジオ
	・講堂（ホール）	・講堂（ホール）	・講堂（ホール）
	・県民ギャラリー	・県民ギャラリー	・県民ギャラリー
④環境整備等	・バリアフリー化（抜本的改善） ・駐車台数は大幅に増加	・バリアフリー化（エレベーター・トイレ増設） ・第2駐車場は拡張整備	・バリアフリー化（エレベーター・トイレ改修） ・第2駐車場は現状維持

メリット・デメリット分析のまとめ

評価	・規模を抑えつつ、課題に抜本的に対応するとともに、多様な展示への対応、施設全体の一体的な運用などにより、大幅に機能刷新・高度化	・現美術館が抱える課題に対し、増築により対応し、機能が大きく向上	・展示・収蔵面積確保など主な課題に増築しないで対応し、現状よりも機能向上
----	-----------------------------------------------------------------	----------------------------------	--------------------------------------



4. ライフサイクルコスト

メリット・デメリット分析の視点

☞ 美術館の整備手法によるライフサイクルコスト(イニシャルコスト, 整備後30年間のランニングコスト及び大規模修繕費等)を比較。〔大規模修繕等は15年後に設備更改, 30年後に大規模改修を想定〕
(単位: 億円/税込)

	A案 (集約・複合化)	B案 (美術館増築)	C案 (美術館増築なし)	
事業費 (一般事業債(地方単独事業) の活用を想定)	イニシャルコスト ¹⁾ 〔うち, 美術館改修費 美術品移転・保管費〕	330	290 〔30 7〕	
	ランニングコスト ²⁾	250	280	
	大規模修繕費等	200	200	
30年間負担額① (単年度の平均)	780 (@26)	840 (@28)	770 (@26)	
公共施設等適正管理推進事業債(集約化・複合化事業, 長寿命化事業)を活用した場合	30年間負担額② (単年度の平均)	650 (@22)	830 (@27)	760 (@25)

1)イニシャルコスト
工事費, 調査費, 設計・監理費,
美術品移転・保管費等
2)ランニングコスト
維持管理費, 運営費(人件費, 事業
費等)等

※上記の試算は, 比較検証のために一定の条件を設定して行ったものであり, 実際の事業費とは異なる場合がある。

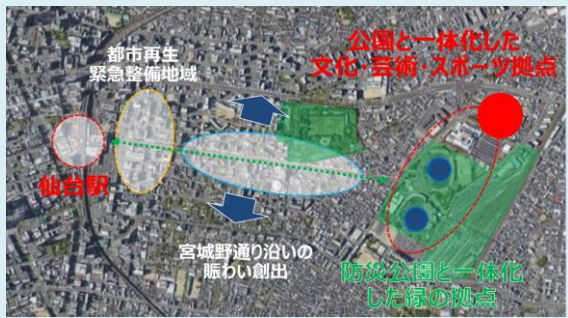
メリット・デメリット分析のまとめ


- ・事業費総額(30年間負担額①)については, C案が最も優位である。B案は全てにおいて割高となる可能性が高い。
- ・公共施設等適正管理推進事業債を活用する場合, A案が実質的な財政負担(30年間負担額②)が最も小さいが, 活用条件として, 現美術館の除却(機能転用, 譲渡, 撤去)が必要となる。



5. 美術館の建物及び立地

メリット・デメリット分析の視点 ➡ 現美術館の建物及び立地の比較

A案(集約・複合化)	
機能廃止が前提	
<p>現美術館の建物</p> <p>▽ 除却(機能廃止)する場合, 機能転用, 譲渡, 撤去などが想定され, 建物等に係る取扱いについて課題が残る。</p>	
<p>新設する美術館</p> <p>▽ 榴岡公園や宮城野原公園総合運動場, 広域防災拠点等とともに, 文化芸術, 緑の拠点として多くの人々が日常的に集い, 憩う施設となり, 仙台駅東側エリアの発展に寄与することが期待される。</p> <p>▽ 文化芸術にとどまらない, 様々な分野の連携の中核的な存在となる。</p>	
 <p>都市再生緊急整備地域 仙台駅 宮城野通り沿いの賑わい創出 公園と一体化した文化・芸術・スポーツ拠点 防災公園と一体化した緑の拠点</p>	

B案(美術館増築)	C案(美術館増築なし)
リニューアルし保存・活用	
<p>現美術館の建物</p> <p>▽ 近代建築の巨匠ル・コルビュジェに師事した前川國男氏が設計。河岸段丘の地形と周囲の自然を巧みに生かした設計である。</p> <p>▽ 本館開設後, 宮城県ゆかりの彫刻家佐藤忠良氏から作品の寄贈を受けて, 佐藤忠良記念館が増設された。</p>	
<p>周辺環境</p> <p>▽ 広瀬川や青葉山など, 美しく豊かな自然環境に囲まれ, 親しまれている。</p> <p>▽ 周囲の自然環境を生かした教育普及プログラムを実施しており, 全国的にも特徴的な取組となっている。</p>	
<p>その他</p> <p>▽ 建物や敷地内の自然と調和した作品(環境彫刻)が展示されており, 特徴の一つ。</p> <p>▽ 本館と佐藤忠良記念館の間に彫刻庭園「アリスの庭」があり, 多くの人々の憩いの場となっている。</p>	
	

メリット・デメリット分析のまとめ

- ・現美術館の建物等の取扱いについて課題
- ・新美術館は仙台駅東側エリアの発展への貢献が期待

- ・現美術館の建物や立地の価値を維持・継承







6. 文化芸術の振興

メリット・デメリット分析の視点 文化芸術の振興に資する取組の比較

<p>宮城県 文化芸術 振興ビジョン (第二期)</p>	<p>基本目標：文化芸術の力で創造する みやぎの未来 ～ 心の復興を目指して ～</p> <p>基本方針：1. 文化芸術の振興と継承 2. あらゆる人が文化芸術を創造・発表・享受できる環境づくり 3. 文化芸術の持つ力の活用</p>
------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

A案(集約・複合化)	B案(美術館増築)	C案(美術館増築なし)
------------	-----------	-------------

<p>宮城県美術館リニューアル基本方針(リニューアルコンセプト)</p> <ol style="list-style-type: none"> 子どもたちの豊かな体験を創出する美術館 人々が憩い、くつろぎ、集い、つながる美術館 国内外の人々が魅了される美術館 ともに築きあう美術館 	 <p>見える収蔵庫 (ヴィジブル・ストレージ) ※C案を除く</p>	 <p>キッズ・プロジェクト</p>
<p>宮城県民会館整備基本構想(基本方針)</p> <ol style="list-style-type: none"> 東北最大規模の大型総合エンターテインメント拠点 最先端の芸術発信・クリエイティブ拠点 県内文化施設人材育成中核拠点 新たなコミュニティ拠点 	 <p>大ホール (2,000～ 2,300席程度)</p>	 <p>スタジオシアター (500～ 800人程度)</p>

<p>▽県民会館と美術館の複合化により、舞台芸術と視覚芸術の連携が容易になる</p> <p>▽施設全体としての一体的運用により、大規模な芸術祭の開催等が可能となる。</p>	<p>▽複合施設及び美術館にそれぞれギャラリーを整備することによる発表機会の拡大</p> <p>▽文教地区における取組が、賑わいある仙台駅西側エリアに波及し、文化芸術活動の幅が広がりやすい</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

メリット・デメリット分析のまとめ

<p>・複合化に伴う他分野連携や施設の一体的運用による文化芸術振興についての新たな展開の可能性</p>	<p>・文教地区を起点とした取組の広がりによる文化芸術活動の更なる成熟</p>
-----------------------------------------------------	-----------------------------------------

7. 地理的条件

メリット・デメリット分析の視点  立地特性や交通環境, 安全性等の地理的条件の比較



「宮城野原駅」直結, 仙台駅から2.2km



「国際センター駅」から徒歩7分, 仙台駅から2.6km

	仙台医療センター跡地(宮城野原)	現・美術館敷地(川内)
特性	<ul style="list-style-type: none"> 運動施設と公園の集積による賑わいと活気のある環境 隣接する広域防災拠点との連携の可能性 	<ul style="list-style-type: none"> 美しく豊かな自然環境に囲まれた環境。 教育, 研究機関など, 文教施設が集積したエリア
交通	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道の利用が可能。駐車場が多数確保可 野球場, 病院駐車場利用者との交錯を回避の検討が必要 慢性的な渋滞の発生は想定されない 	<ul style="list-style-type: none"> 地下鉄駅の利用(駅から徒歩圏内) 通学時間帯の通行量が多く, 工事の安全性配慮が必要
安全性	<ul style="list-style-type: none"> 宮城県沖地震: 震度6弱と想定 長町-利府断層地震: 震度6強と想定 地質調査では, 液状化の可能性は低い判定結果。 周辺道路が5~20cmの浸水可能性あるため, 嵩上等で対応 	<ul style="list-style-type: none"> 宮城県沖地震: 震度5弱~6弱と想定 長町-利府断層地震: 震度6強と想定 液状化, 浸水被害のリスクは低い。 敷地北側が土砂災害警戒区域の指定あり。
敷地条件	<ul style="list-style-type: none"> 長町-利府断層に対する耐震性検討が必要(敷地の西側付近に断層有) 救急車両や野球場の花火, 歓声に対する対応が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 南側と東側の道路が都市計画道路として拡幅が予定されており, 建設用途に制限がある。 敷地内に西道路川内トンネルの地上権設定がなされ, 用途制限があり, 建替の場合, 工事が困難なため費用増。

メリット・デメリット分析のまとめ

- アクセス, 駐車場数により利便性に優れる
- 周辺環境に起因する課題への対応が必要

- 地震, 水害のリスクに強い立地環境
- 大規模工事, 建替の際に懸念あり



8. メリット・デメリット分析のまとめ

赤字はメリット(強み・利点),
青字はデメリット(弱み・課題)を示す

	A案(集約・複合化)	B案(美術館増築)	C案(美術館増築なし)
(1) 美術館の 主な機能	<ul style="list-style-type: none"> 規模を抑えつつ、課題に抜本的に対応するとともに、多様な展示への対応、施設全体の一体的な運用などにより、大幅に機能刷新・高度化 	<ul style="list-style-type: none"> 現美術館が抱える課題に対し、増築により対応し、機能が大きく向上 	<ul style="list-style-type: none"> 展示・収蔵面積確保など主な課題に増築しないで対応し、現状よりも機能向上
(2) ライフサイクル コスト (適正化債活用時)	<p>780億円 (650億円)</p>	<p>840億円 (830億円)</p> <p>うち、美術館改修費 約60億円</p>	<p>770億円 (760億円)</p> <p>うち、美術館改修費 約30億円</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 事業費総額については、C案が最も優位である。B案は全てにおいて割高となる可能性が高い。 公共施設等適正管理推進事業債を活用する場合、A案が実質的な財政負担が最も小さいが、活用条件として、現美術館の除却(機能転用、譲渡、撤去)が必要となる。 		
(3) 美術館の 建物及び立地	<ul style="list-style-type: none"> 現美術館の建物等の取扱いについて課題 新美術館は仙台駅東側エリアの発展への貢献が期待 	<ul style="list-style-type: none"> 現美術館の建物や立地の価値を維持・継承 	
(4) 文化芸術の 振興	<ul style="list-style-type: none"> 複合化に伴う他分野連携や施設の一体的運用による文化芸術振興についての新たな展開の可能性 	<ul style="list-style-type: none"> 文教地区を起点とした取組の広がりによる文化芸術活動の更なる成熟 	
(5) 地理的条件	<ul style="list-style-type: none"> アクセス、駐車場数により利便性に優れる 周辺環境に起因する課題への対応が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 地震、水害のリスクに強い立地環境 大規模工事、建替の際に懸念あり 	



9. 施設整備に向けた県の方針(案)

◆ メリット・デメリット分析を踏まえた評価(判断)のポイント

- 美術館等の機能充実を通じた文化芸術の振興
- 施設総量適正化に伴う財政負担軽減や運営効率化の達成
- 現美術館の建物等の維持・継承



◆ 県の施設整備方針(案)

美術館は現地改修（増築なし）、県民会館・NPOプラザは移転集約

「C案」 を基本として今後の検討を進める。



10. 県民説明会の開催について

日時:令和2年11月28日(土) 午後1時30分から

場所:宮城県行政庁舎 2階講堂

定員:200名(先着順)

申込方法:みやぎ電子申請システムによる

※ 詳細は、震災復興政策課HPを参照ください

